



さいたま新都心に一番近い学校

平成28年10月号

平成28年10月3日

さいたま市立下落合小学校

電話 852-2280

FAX 852-0188

下落合小だより

学校目標 よく考える子 思いやりのある子 明るく元気な子

優しい心とその心を表現する言葉を大切にしたい

校長 稲垣克行



4年生の小川和紙の体験

9月には、6年生の園児への読み聞かせ、4年生の小川和紙体験など、多くの行事を行いました。このような様々な活動の中で、子ども達の新しい一面を見ることができました。特に、ベンチが空いているのを見つけて、「校長先生どうぞ。」と言われた時には、なんとも心温まる気持ちになりました。

さて、先の新聞に『ら抜き言葉』と呼ばれる『見れた』『出れる』を使う人の割合が『見られる』『出られる』を上回った。」との記事を見ました。このことを調査し発表した文化庁は、5年前には「日本語の乱れ」などの指摘

もあつたが、現在は、「どちらが正しいと言えない」としているようです。また、メールでの表現について、絵文字を使う人の割合は5割を超えたようです。

奈良時代の歌を集めた万葉集に、「親々」「重石」「火気」「蜂音」が出てくるのだそうです。奈良時代には、まだ、ひらがなやカタカナがなく、中国から渡ってきた漢字を使っていました。国語（日本の言葉）を表そうとして上記のような漢字を当てたようです。「親々」は親親で「チチハハ」、「重石」は重い石で「イカリ」、「火気」は火の気で「ケブリ」、「蜂音」は蜂が飛ぶ音で「ブ」です。1300年前に、なんと自由な、おおらかな表現で日本の言葉を漢字で表しています。驚くばかりです。

子ども達が社会の中心になる30年先・40年先は、どんな言葉、どんな表現が使われているのでしょうか、国語（日本の言葉）は、「生き物」だとも言われます。国語（日本の言葉）が変わっても、ベンチが空いているとき「どうぞ」というような優しい心とその優しい心を表す言葉をもつ国であってほしいと願います。



6年生が園児に読み聞かせ

<6年生による幼稚園での読み聞かせ活動>

9月12日(月)に、近くの幼稚園で園児との触れ合いの機会をもちました。絵本の読み聞かせやあそびを通して、小さな子、自分より弱い子への思いやりの心を学びました。視線を低くして園児の目の高さに合わせ、園児の言葉や態度に注意を払い、優しいお兄さんにお姉さんになりました。10月12日(水)から修学旅行です。最高学年として立派で思い出に残る行事にしてください。